

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:21-22.

ホワイトボードを活用したカンファレンスの効果と課題

谷口 亜紀子、佐藤 こずえ

ホワイトボードを活用したカンファレンスの効果と課題

旭川医科大学病院 10階西ナーステーション ○谷口亜紀子、佐藤こずえ

【はじめに】

B病棟では、日々のカンファレンスで、年齢や疾患にかかわらず、個別性を尊重したケアが実践できるよう、看護で解決可能な介入と成果の検討を目的に話し合ってきた。しかし、実際のカンファレンスでは、発言するスタッフの固定化、看護診断名探し、患者中心ではなく看護師の困り事に焦点がおかれた話し合いが多かった。そのため、参加者がカンファレンスに参加しやすく、メンバーシップが発揮できる環境調整の必要性を感じた。

デビッド¹⁾は、ビジュアル・ミーティングは、視覚を用いたコミュニケーションであり、創造的な成果を導き出すことをサポートし、チーム力を拡大すると述べている。そこで、カンファレンス時に、パソコン画面を注視するといった今までの方法ではなく、ホワイトボードを使用する事で、メンバー間の情報交換が容易となり、具体的な意思統一がはかれるのではないかと考えた。

【目的】

ホワイトボードを活用したカンファレンスにより、チームのコミュニケーションが高まり、より良い看護実践のための具体的な意思統一がはかれたかを明らかにする。

【研究方法】

1. 対象者:A病院B病棟に勤務する看護師15名。そのうち、調査に協力が得られた14名(回収率約93%)を分析対象とした。
2. 研究期間:H25年11月～H26年1月
3. ホワイトボードカンファレンス(以下WBカンファレンス)の内容:カンファレンス時にホワイトボード(置き型)を机の上に置き、参加者がその周囲を囲み、1日1回約30分間行う。司会が話し合うテーマ、時間配分をホワイトボードに記載し、書記が話し合った内容を記載する。
4. データ収集方法:独自で作成した、パソコンカンファレンス(以下PCカンファレンス)
(10項目)の質問紙を対象者に配布。その後、WBカンファレンス実施1ヶ月後に、WBカンファレンス(21項目)と自由記載欄を設けた質問紙を配布。1週間後に回収袋を設置回収。

5. データ分析方法:PCカンファレンス、WBカンファレンスの質問項目を単純集計し、自由記載内容を研究者間で分析した。

【倫理的配慮】

対象者に研究の趣旨と個人情報の保護などを口頭と書面で説明した。質問紙は無記名とし、回収をもって同意とした。なお、本研究は倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】

対象者の属性は、看護師経験年数(平均7.86年)、看護診断経験年数(平均5.07年)で、1～3年が42.9%と共に最も多かった。

1. PCカンファレンスとWBカンファレンスの比較

「患者の情報共有」「話し合われた内容や意見が整理できる」「満足度」では、PCカンファレンスで、「できる」と回答した者はいなかったが、WBカンファレンス後は、半数以上が「できる」と回答した(表1)。また、「患者・家族中心の話し合い」「ケアに活かせる内容」「看護診断に繋がる話し合い」においても、WBカンファレンス後、「できる」と回答した者が約3倍以上増加した(表1)。

2. 自由記載内容

PCカンファレンスに比べ、WBカンファレンスは、「途中参加しても内容がわかる」「患者の全体像が把握しやすい」「意見が言いやすい」「皆が同じ目標に向かって話している」「看護の方向性が明確になる」など肯定的な意見が多かった。その一方で、「司会や記録によって成果が変化する」「話す内容により、PCカンファレンスの方が良い」といった意見もあった。

【考察】

WBカンファレンス後は、「患者の情報共有」「話し合われた内容や意見が整理できる」「満足度」で「できる」と回答した者が増加した。これは、今までのPCカンファレンスとは違い、参加者がお互いの顔を見ながら、話し合った内容がホワイトボードに記載される事で情報が可視化され、情報の共有や整理が促進されたと考えられる。また、自由記載の「途中参加しても内容がわかる」「意見

が言いやすい」といった、カンファレンスに参加しやすい環境面も「患者の情報共有」「満足度」を高めていると推察する。大坪²⁾は、ホワイトボードを活用するメリットとして、議論のプロセスが視覚でわかり、知識や事実、創造的なアイデアが図式化され、情報が整理しやすく、会議の達成感が高まると述べており、今回の調査も同様の結果が得られた。次に、WBカンファレンス後、「患者・家族中心の話し合い」「ケアに活かせる内容」「看護診断に繋がる話し合い」で「できる」と回答した者が増加した背景には、「患者の情報共有」が容易となった事が影響していると考えられる。WBカンファレンスでは、看護診断名やプラン内容に関係なく、参加者のもっている患者に関する情報を、ホワイトボードに文字や図を用い記載し、それらの情報を関連付けて話し合える。そのため、患者の事はもちろん、患者を取り巻く家族や環境など様々な視点で話し合え、より患者ケアに活かせる具体的な内容が明らかになると考える。そして、患者の情報を基に、看護で解決可能な介入や成果を検討する事が看護診断に繋がる話し合いとなっていると考える。さらに、自由記載の「皆が同じ目標に向かって話している」「看護の方向性が明確になる」との意見から、WBカンファレンスは、チームのコミュニケーションを高め、意思統一を促していると考えられる。

一方、自由記載で「司会や記録によりカンファレンスの成果が変化する」とあり、進行方法やポイントを絞った記録など各自のスキルアップが求められる。また、PCカンファレンスの利点・欠点を明らかにし、テーマに応じて、WBカンファレンスと使い分けていく事で、さらにカンファレンスが充実すると考える。そして、WBカンファレンスにより看護診断し介入した結果、成果が得られたか評価していく事が今後の課題である。

【結論】

1. WBカンファレンスは、患者の情報共有を促進し、看護診断に繋がる話し合いとなっている。
2. WBカンファレンスは、チームのコミュニケーションを高め、具体的な意思統一を促す。

【引用文献】

- 1) デビッド・シベット:ビジュアル・ミーティング. 朝日新聞出版, P14 , 2013.
- 2) 大坪信喜:会議・ミーティングを見直す. 実務教育出版, P121 - 122, 2013.

表1 PCカンファレンスとWBカンファレンスの比較 (一部抜粋)

n=14

質問項目	患者の情報共有		患者・家族中心の話し合い		ケアに活かせる内容		看護診断に繋がる話し合い		話し合われた内容が整理できる		満足度	
	PC	WB	PC	WB	PC	WB	PC	WB	PC	WB	PC	WB
できる	0%	85.7%	7.1%	64.3%	14.3%	42.9%	7.1%	35.7%	0%	71.4%	0%	64.3%
まあまあできる	71.4%	14.3%	64.3%	28.6%	64.3%	57.1%	50%	64.3%	7.1%	21.4%	71.4%	35.7%
あまりできない	28.6%	0%	28.6%	7.1%	21.4%	0%	35.7%	0%	92.9%	7.1%	28.6%	0%
できない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7.1%	0%	0%	0%	0%	0%